

第 3 章 現地詳細調査

1. 調査地及び調査結果の概要

(1) 調査地

現地詳細調査を実施した地域は図 3. 1. 1 に示す 9 ヶ所である。

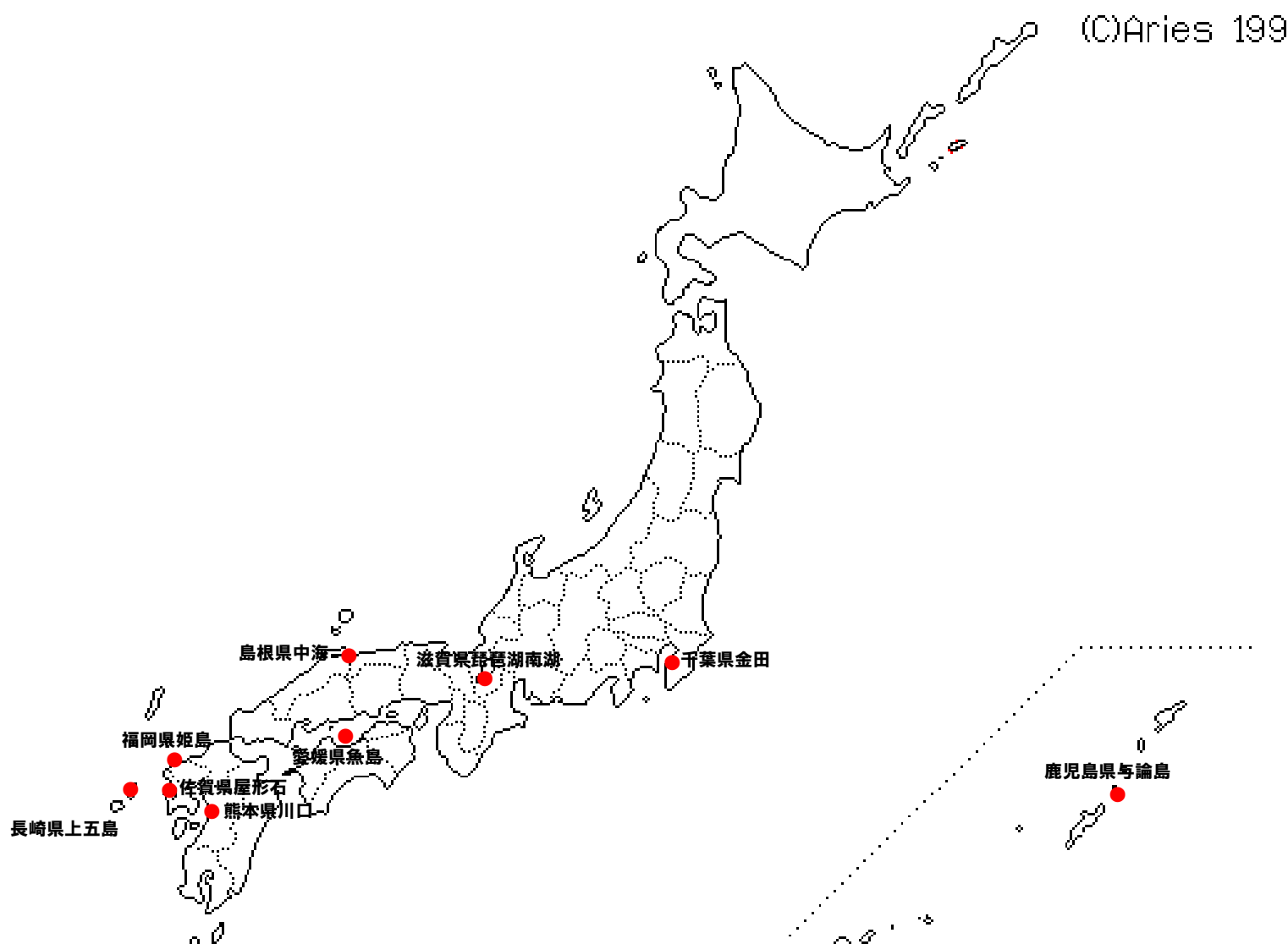


図 3. 1. 1 現地詳細調査場所

(2) 調査結果の概要

① 調査地域の漁業の特徴と課題

調査地域の漁業の特徴と課題は表 3. 1. 1 に示す通りである。

表 3. 1. 1 調査地域の漁業の特徴および課題

県名	漁協名	立地条件	営まれている漁業種類	組合員数			地域の漁業の特徴及び抱えている課題
				正	准	合計	
千葉	金田漁協	都市近郊型 干潟漁業	採貝、ノリ養殖、小型底曳網、刺網、すだて漁業、アナゴ宿、イカ籠	532	152	682	・東京湾に唯一残された盤洲干潟に大きく依存 ・海苔養殖と採貝漁業（主としてアサリ）に大きく依存 ・最盛期に両漁業で16億円あった売上げは2.4億円に激減
滋賀	琵琶湖南湖の8 漁協の連合	都市型 内水面漁業	小型定置網、沖ひき網、貝ひき網、アユ沖すくい網、刺網	235	90	325	・琵琶湖南湖の特産であったセタジミの激減（最盛期の6,000トンから100トン未満に激減） ・南湖の保育場としての機能の喪失 ・漁獲量の激減と後継者の減少・高齢化の進行
島根	中海漁協	都市近郊型 内水面漁業	刺網、小型定置網、延縄、船曳網、採貝、ひき縄、一本釣	327	229	556	・開発による漁場環境の悪化と漁獲量の大幅減少 ・オゴノリの大量繁殖による二枚貝類の斃死
愛媛	魚島村漁協	近距離離島 純漁村	小型定置網、小型底曳網、たこつば、タチウオ釣、刺網、イカ籠	40	28	68	・周辺での海砂利採取の影響で底質がシルト化 ・2009年から海底にウミエラが異常繁殖
福岡	糸島漁協姫島支 所	近距離離島 純漁村	刺網、一雙吾智網、キス流刺網、一本釣、延縄、採貝藻、小型定置網、大型定置網、遊漁	41	16	57	・漁業生産の減少 ・磯焼けの進行による採貝漁業の不振
佐賀	屋形石漁協	純漁村 採貝藻中心	採貝藻、一本釣、小型定置網	64	29	93	・漁業生産の減少 ・密漁の横行 ・2003年以降のガンガゼ異常増殖と磯焼けの進行
長崎	上五島町漁協	遠距離離島 純漁村	中型まき網、小型定置網、一本釣、刺網、延縄、採貝藻、ホコ突、籠、シイ漬、ヒラササ養殖	225	233	458	・漁業生産の減少 ・遠距離離島の宿命から高い流通コスト（生産額の4割） ・磯焼けの進行による採貝漁業の不振
熊本	川口漁協	半農半漁 干潟漁業	採貝、ノリ養殖、小型定置網、流し刺網	173	116	289	・高度経済成長期の川砂採取 ・上流域のダム建設、堰堤建設による砂供給の断絶 ・干潟域のシルト化の進行と貝類の生育環境の悪化 ・アサリ漁獲量の激減
鹿児島	与論漁協	遠距離離島 混住型漁村	ソデイカ放流し、マグロ放流し、曳縄、瀬物釣り、底延縄、タチウオ建網、アサリ釣、トビウオロープ曳、追い込み、磯建網、素潜り	84	208	296	・遠距離離島の宿命から高い流通コスト ・燃油経費率の高い漁業構造 ・観光客の減少による島内需要の減少と魚価の下落

② 輪番休漁の実施状況

輪番休漁の実施状況は表 3.1.2 に示す通りである。

表3.1.2 輪番休漁の実施状況

県名	漁協名	事業実施の背景	活動内容	輪番休漁事業の諸元		
				実施回数	休漁日数	延べ参加者数 助成金(百万円)
千葉	金田漁協	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年6月にカヤドリウミガキが大量発生 ・この3年間、アサリ漁業は壊滅状態 ・ハマグリ資源(寄生しない)の再生による採貝漁業復活 ・アサリ資源再生のための条件整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・カヤドリウミガキおよびその宿主の回収 ・ハマグリ苗の種苗放流 ・覆砂・被覆網の設置 ・害敵生物(ヒトデ、ツメタガイ)の駆除 	9	440	427
		<ul style="list-style-type: none"> ・砂利採取によるくぼ地の形成と湖底のシルト化の進行 ・1994年の大水害を契機とした水草の繁茂(南湖のほぼ全域に繁茂) ・特産資源セウジミの再生と南湖のナール機能の復活 	<ul style="list-style-type: none"> ・水草の除去 ・湖岸に漂着した水草の清掃 ・植食性魚類であるワダカの放流 ・ウナギ稚魚の放流による資源増強 	3	246	101
滋賀	琵琶湖南湖の8漁協の連合	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年からオゴノリが大量発生 ・繁茂したオゴノリが腐敗し、アサリ等の二枚貝類の再生産を阻害 ・環境悪化による漁業資源の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・オゴノリの除去 ・湖岸清掃 ・種苗(タイワンガザミ)の放流 ・竹林の設置 	2	24	62
		<ul style="list-style-type: none"> ・2008年からのウミエラの大量発生 ・小型底曳網やタコツボ漁業に甚大な影響(漁場の喪失) ・漁獲金額は4～6割減 	<ul style="list-style-type: none"> ・海底に分布するウミエラの除去、処分 	1	30	6
福岡	糸島漁協姫島支所	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼けの拡大とヒトデの大量発生 ・採貝漁業の漁獲量の激減 ・海外からのゴミ類の漂着による地先環境の悪化 ・密漁者による資源の略奪 	<ul style="list-style-type: none"> ・監視船、陸上レーダーによる密漁監視 ・玉砂利海岸のゴミ清掃 ・害敵生物(ウミヘビ、ヒゲ、ウミウシ)の潜水駆除 ・潜水、鉤による海底ゴミの回収 	4	72	22
		<ul style="list-style-type: none"> ・採貝漁業の漁獲量の減少 ・ガンガゼの大量発生と燃焼けの進行 ・ゴミ類の漂着 	<ul style="list-style-type: none"> ・害敵生物(ガンガゼ)の潜水駆除 ・沿岸域でのゴミ回収 	3	36	28
長崎	上五島町漁協	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼けの拡大による磯根資源の減少 ・違反操業からの資源保護 ・海外からのゴミ類の漂着と環境悪化 	<ul style="list-style-type: none"> ・害敵生物(カンガゼ、ムササギウニ)の潜水、木コによる駆除 ・サチノ、チエーン等による海底ゴミの回収 ・漁船による浮遊ゴミの回収 ・船上からの密漁監視 	3	460	59
		河川砂利採取やダム建設による干潟域のシルト化とホトギスガイの大量発生によるアサリ資源の低下	<ul style="list-style-type: none"> ・採貝漁業の監視・指導 ・緑川から流入する水草等の漂着・漂着ゴミの除去 ・有害生物(ツカガイ類、卵塊)の除去 ・海産物(ウミヘビ、ヒゲ)の駆除と底質改善 ・サチノ、チエーンの食害から守る保護区の整備 	2	172	121
鹿児島	与論漁協	<ul style="list-style-type: none"> ・海外からのゴミ類の漂着 ・サンゴ礁の保全とウミガメ産卵場の保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・海浜ゴミの除去 ・イノー(礁湖)内に浮遊するゴミ類の回収、処分 	3	50	55

③ 輪番休漁の成果

輪番休漁によって取り組んだ活動の成果を表3.1.3にまとめた。

表3.1.3 輪番事業の成果

県名	漁協名	1次的成果	直接的成果(資源・環境的側面)	間接的成果(社会・経済的側面)
千葉	金田漁協	<ul style="list-style-type: none"> ■カイトリウミクモが寄生した宿主の駆除量:269,610kg ■ハマグリ資源の定着と増加(平成22年は約15トンの漁獲) ■ハマグリ資源の放流量:36,675kg ■被覆砂面積:4,320㎡、■被覆網の設置面積:9,900㎡ 	<ul style="list-style-type: none"> ■カイトリウミクモ寄生個体の減少 ■ハマグリ資源の定着と増加(平成22年は約15トンの漁獲) ■アサリ資源復活のきざし(16~30mmサイズがウミクモ発生以前の水準まで復活) 	<ul style="list-style-type: none"> ■採貝漁業者の収入補てんと漁家経営の下支え(転業の延命) ■漁業者の資源、環境に対する意識の高まり
滋賀	琵琶湖南湖の8漁協の連合	<ul style="list-style-type: none"> ■水草の回収量:約2,500トン(途中段階、現在実施中) 	<ul style="list-style-type: none"> ■湖岸の美化の進行 ■エリ網にかかる漂着物の減少と漁業の正常化 ■テナガエビ資源の復活のきざし ■水草を通じての栄養塩類の陸域への回収 	<ul style="list-style-type: none"> ■各漁協の漁業者間の連帯感の高まり ■琵琶湖汽船の航路の確保 ■琵琶湖の水質改善への貢献
島根	中海漁協	<ul style="list-style-type: none"> ■オゴノリ等の海藻類の回収量:1,080m³ ■湖岸のゴミ回収量:341m³ ■竹林礁の設置:8ヶ所 	<ul style="list-style-type: none"> ■オゴノリ回収による栄養塩回収 ■オゴノリ除去水域での稚カニの増加 ■アサリ稚貝の大量発生 	<ul style="list-style-type: none"> ■県の環境施策への反映 ■漁業者間のコミュニケーションの深化 ■漁家経営の下支え ■オゴノリの堆肥化と地域おこし
愛媛	魚島村漁協	<ul style="list-style-type: none"> ■ウミエラ36.8トンを駆除 	<ul style="list-style-type: none"> ■ウミエラの減少 	
福岡	糸島漁協姪島支所	<ul style="list-style-type: none"> ■回収した海浜ゴミ:2,970kg(1~3回まで) ■害敵生物駆除量:カンガセ7,500、クロガセ43,000、ウミカン5,300、ヒデ類:15,300個(1~3回まで) ■回収した海浜ゴミ:1,650kg(1~3回まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ■藻場再生のきざし(一部のガラモ場再生、モズクが付着) ■玉石の間にたまっていたゴミ類や海底ゴミの除去で島周辺の環境が改善 	<ul style="list-style-type: none"> ■密漁者への牽制と抑止効果 ■活動を通じて漁業者のチームワークがさらに向上 ■釣り客のマナーが向上 ■漁家経営の下支え(女性から感謝)
佐賀	屋形石漁協	<ul style="list-style-type: none"> ■海浜ゴミ回収量:4,500kg(1回分) ■害敵生物駆除量:カンガセ253,600個 	<ul style="list-style-type: none"> ■燃油使用量の削減 ■沿岸域の環境保全 ■アワビ資源の増加(感触) 	<ul style="list-style-type: none"> ■連帯感の向上 ■漁家経済の支援 ■資源管理・漁場保全の意識の向上
長崎	上五島町漁協	<ul style="list-style-type: none"> ■食害生物の駆除面積:41ha ■食害生物の駆除量:783千個体 ■ゴミの回収量:58.8m³ 	<ul style="list-style-type: none"> ■藻場再生のきざし(駆除海域にホンタワラが再生) ■光量制限遵守の意識が醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ■共同作業を通じて連帯感が向上 ■漁協への協力的意識が向上 ■漁家経済への支援 ■密漁者への牽制と抑止効果
熊本	川口漁協	<ul style="list-style-type: none"> ■有害生物駆除量:1,095kg ■水草等の漂着物回収量:31,120kg ■海底耕うん及びホトトギス駆除面積: 	<ul style="list-style-type: none"> ■アサリ稚貝の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ■アサリ、ハマグリ共販率の向上 ■漁家経済への支援 ■漁業者の意識改革
鹿児島	与論漁協	<ul style="list-style-type: none"> ■ゴミの回収量:24,535kg 	<ul style="list-style-type: none"> ■サンゴ礁及び海岸部の環境保全 ■燃油使用量の削減と資源の温存 	<ul style="list-style-type: none"> ■漁業者間のコミュニケーションの深まり ■漁家所得の増加と漁協未収金の減少